NEWSLETTER

2025 年

マリアの風　Web　10/11

高校生が訴える政策甲子園

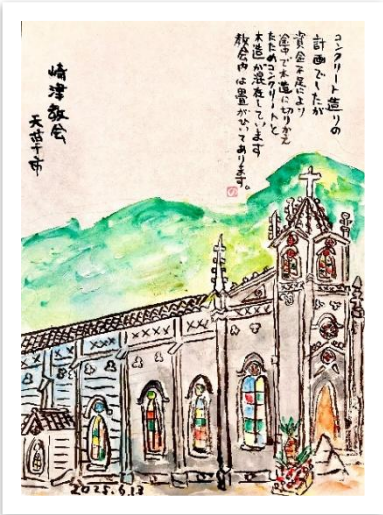
政策甲子園というものをご存知でしょうか。私はこの秋に初めて知ったのですが、公益社団法人 日本青年会議所が 2023 年より開催しているもので、全国の高校生を対象にした政策コンテストです。設定されたテーマに基づき高校生が社会課題について考え、政策を立案し、そして有識者の方などオーディエンスの前で演説し、審査員、およびインターネット投票で競うというものです。今年は3回目が開催され、「未来の日本を創造する!! 持続可能なデジタル政策！」と「あなたは総理大臣!! 地域の社会課題と明るい未来！」の 2 部門のテーマで政策を募集。全国 33 都府県から 352 チームのエントリーがあったそうです。書類選考、地区予選大会を経て、各部門 8 チーム（2 部門合わせて 16 チーム）が決勝大会に進出し、投票で最優秀賞が選ばれています。

インターネットで高校生たちの発表を見ることができます。5分間の短い演説ですが、声の出し方、話し方、身振り手振りの全身で訴えるパフォーマンスで、聞く人を引き付ける発表でした。日本の課題をきちんと捉え、それを解決するプロジェクトを考え、現実社会で取り組めるような政策を作り上げていました。私が知らない言葉や制度などが発表の中にあり勉強になりました。長崎のチームも最終選考に残っており、もちろん私はそのチームを応援しました。「今時の若い者は」なんてよく言いますが、今時の若い者に、もうびっくりです。本当に頼もしく、素晴らしいと思いました。若者が持っている力、やる気、才能は無限大だと感じました。将来の日本を担う気概にあふれていました。私は彼らの意欲を伸ばしていく大人でなければならないと感じました。

（院長　山中淳子）

巡礼の旅のスケッチ展示

2025年5月15日から6月13日にかけて、中嶋範朗さんが長崎と天草地方を巡りながら描いた「潜伏キリシタン関連遺産」のスケッチを1階ロビーに展示しています。旅先でのエピソードなども短く添えられており、その場に佇んでいるような気分になります。



バーベキュー会

9月18日　年に一度のバーベーキュー会が催されました。日頃の労をねぎらい、普段はあまり話す機会のない部署の人とも交流することができました。

剪定作業

まだ夏の暑さが残っている9月の終わりに、1週間をかけて病院周囲の植木の剪定作業が行われました。こんもりと茂って林のようになっていた中庭はすっきり刈り込まれ、苔むしていた通路も日当たり良好となり、車いすの患者さんも喜んで外気浴に出かけています。

鶴島巡礼

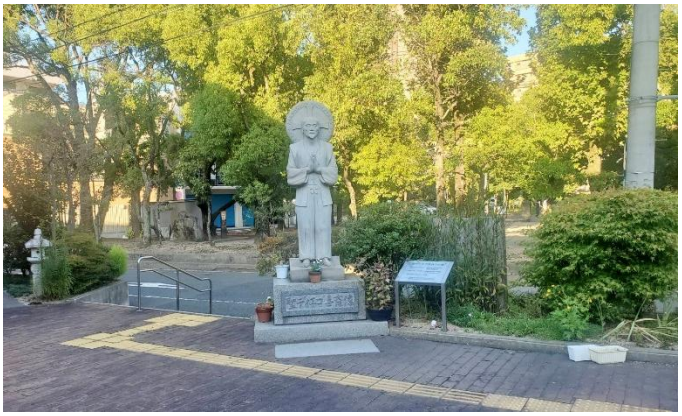
10 月 12 日～14 日、お告げのマリア修道会が企画する鶴島巡礼に、聖マリア病院から 2 人の職員も参加しました。年に 1 度行われる記念ミサに参加し、修道会の創立期の方々の歩いた道のりをたどりながら、聖マリア病院のカトリックの精神を学ぶことが目的です。事前の勉強会を経て、2 泊 3 日の巡礼の旅に出発しました。

鶴島巡礼に参加した職員の声

正直、鶴島巡礼の旅はとても過酷でした。しかし、鶴島に流刑にされた岩永マキをはじめ１１７名の信者に比べると、日頃の自分がいかに甘いのかを痛感させられました。岩永マキが鶴島で体験した、すし詰め状態の長屋暮らし、説教聴聞、未開地の開墾、空腹と拷問の日々は、ただ苦しいだけの 3 年半ではなかったように感じます。この信仰の体験は、のちに長崎に戻り、児童養護施設等を立ち上げた原動力であり、今のお告げのマリア修道会の基盤ともいえるのではないでしょうか。今回、岩永マキの足跡をたどる体験をして、より一層強い信仰心をもって日々の生活を送りたいという思いになりました。　　（介護福祉士　中尾 裕治）

この 2 泊 3 日の旅は決して楽なものではなかったです。しかし、前日から 40 キロの徒歩巡礼をされた人たちや、岩永マキさんたちの話を聴くと、旅のきつさなど比べものにならないほどでした。鶴島でのミサでは、各地から熱心な信者さんが参加しており、信仰への熱い思いを目のあたりにしました。マキの精神・想いは今もきちんとシスターたちや信者さんに引き継がれていると感じました。鶴島巡礼を経て、マキのような強い精神を持ち、揺るがない心が私には必要だと思いました。　余談ですが、広島のお好み焼きはとてもおいしかったです。次回行かれる方はかなりの距離を歩くので、靴は運動靴で、窮屈でないものをお勧めします。

（介護福祉士　山口義生）



歴史メモ

流刑地 鶴島と岩永マキの生涯

1868 年に発足した明治政府は江戸幕府のキリシタン禁教政策を踏襲し、浦上の潜伏キリシタン約 3400 人を西日本各地に流罪とした（浦上四番崩れ）。117 人が岡山藩に預けられ、鶴島に送られた。政府が禁教を解く 73 年まで、島の開墾と改宗を強制されて 18 人が飢えや拷問で亡くなった。

岩永マキは 20 歳の頃、この流刑を体験している。信仰の自由を得、流刑地から戻った浦上の地は無残にも荒らされ、家も家財道具もなかったという。そんな中で、赤痢や天然痘が長崎で流行。一度は死を覚悟したマキと仲間の女性たちは、人々の救済のためにフランス人宣教師の手足となり、合宿しながら献身的に救護活動に励んだ。伝染病が終息した後に親を亡くした子どもが残され、彼女たちは自分たちの手でその子どもを育てることを決意。孤児を養う事業が始まり、これが日本で初めての児童養護施設、浦上養育院となり、女性たちの共同生活は現在のお告げのマリア修道会へとつながっていく。マキは、生前に新聞のインタビューで、引き取った孤児の数を 5600 人と答えた。原爆によりマキに関する資料はほとんど消失しており、正確な数字は確認しようがないが、数多くの子どもたちのために、72歳で亡くなるまでの生涯を捧げ尽くした。浦上天主堂での葬儀には、2500 人が参列し、墓地までの道は 1.2 キロに及ぶ行列が続いたという。

ロザリオのつどい

10月25日　聖マリア病院の患者さんと職員、修道院のシスターたちが一堂に会してロザリオの祈りを捧げ、病気や戦争、不和のために心身の痛みを感じている人の平和を願いました。

研修医紹介

久留米聖マリア病院より研修医が来ています。

木戸（きど）　晴香（はるか）　先生　　Dr. Kido　Haruka

１１月の初めまで地域研修でお世話になります。初期研修医の木戸晴香と申します。五島を訪れるのは今回が初めてで、豊かな自然、人々の温かさに日々魅了されています。私は、１年目の時から五島で研修し、緩和ケアや主治医としての在り方を学び、今までの知識をアウトプットしたいと思っていました。至らない点も多くあると思いますが、約２カ月間、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いします。

Profile

◇出身地…福岡県
◇趣味…旅行
◇志望科…外科
◇研修期間…令和７年９月７日～１１月１日

１１月と１２月の行事予定

11 月

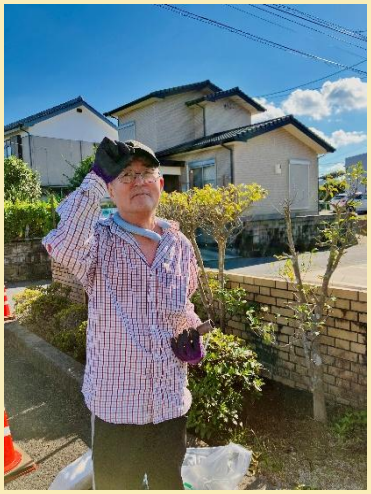
２日（日）　第２回　聖マリア病院
　　職業体験フェスタ
５日（水）　追悼のつどい
２１日（金）　防火訓練
３０日（日）　まごころひろば

12 月

２５日（木）　クリスマス
３０日　（火）　仕事納め

次回発行日は令和８年１月１日です。

今　月　の　写　真



病院の植え込みの雑草をとるためにボランティアさんが来てくれています。暑いなか辛抱強く働かれていましたが、声をかけると笑顔で「天国にいくためよ」と朗らかな笑顔を向けてくれました。

編集者より

肌寒くなってきました。食事作りの当番でスーパーに買い物に行くと、食品の値上がりに直面します。財布と相談しながら、量を減らすか、安い代替品にするか、かさ増し食材で補うか、値札を見比べあらゆる手段を講じます。おそらくどの家庭でも同じような体験をされていることでしょう。この秋、日本で初めての女性首相が誕生しました。女性だから、食品の高騰が家計を圧迫する感覚を肌で感じているのでは、と思いたいところですが、食事作りはもっぱら夫の役割との事。多様性の時代の直中を生きています。

（編集者）